

2017 年度台湾 JIP 報告書

大学院 言語教育研究科 シュ ケイハン
外国語学部 外国語専攻 藤原有里
外国語学部 外国語専攻 馬場真樹
外国語学部 日本語専攻 加藤莉里子

派遣先：国立屏東大学(台湾)

滞在期間：3月4日～3月31日

研修期間：3月5日～3月30日

費用：約10万(この研修にかかった総金額)

実習時間：文法のクラス 50分×2コマ(改訂版『みんなの日本語』第25課 「た形&て形の確認、
仮定条件のたら、確定条件のたら、ても」を4人で分担)
会話のクラス 50分×4コマ(改訂版『みんなの日本語』第25課 練習B&C「仮定条件
のたら、確定条件のたら、ても、まとめ」を4人で分担)

見学時間：50分×51コマ(藤原)

50分×46コマ(加藤)

50分×46コマ(馬場)

50分×50コマ(朱)

主な使用教材：改訂版『大家的日本語』(みんなの日本語)、『会話に挑戦』

1. 研修先について

国立屏東大学は、台湾の屏東にあり、高雄国際空港から車で約1時間の距離にある。気候は暖かい(夏)。最寄り駅は屏東駅である。駅までバスまたはタクシーで約10分である。研修初日にオリエンテーションがあり、1カ月の予定確認や、図書館などの大学内施設の使い方などの説明があった。キャンパス内の建物は少ないが、敷地面積が広い。

この大学に入学してくるが学生は、日本でいう商業・工業高校出身の学生または、高校で日本語クラスがあった学生がほとんどである。

2. 寮について

女子2名は、応用日本語学科があるキャンパス内の寮に宿泊していたが、このキャンパスには男子寮が無いため、男子2名はそのキャンパスから自転車で約15分の距離にあるキャンパスに宿泊していた。女子2名は別々の部屋で、1人の実習生と3人の学生(内1人が応用日本語学科の学生)の4人構成だった。男子2名は同じ部屋で、4人部屋を2人で使用していた。寝具は新品のものを大学が事前に用意してくれており、後日国際センターにて料金を支払った。寮には机・小さなクローゼット・ベッドがあり、生活するには十分であった。

3. 応用日本語学科について

応用日本語学科はカリキュラムの変更などで授業の変動や、使用教材の変更(今年から『みんなの日本語』は改訂版を使用)があった。とれる授業数が減ったこともあり、先生方は「卒業後、就職する際に日本人と同じぐらいの日本語力であるように」という目標のもと授業が行われていた。そのため、初級は1年生で終わらせ、1年生の時から会話クラスでは、通訳の練習を入れている(4年生の時に通訳の授業があるから)。応用日本語学科の学生は1~4年生合わせて、約220名である。

4. 校内授業見学

主に1年生と2年生の授業を見学。主に見学した授業は以下の通りである。

- ・日本語(文法クラス) 1年生
- ・日本語聴講練習(会話クラス) 1年生
- ・進階日本語會話(会話クラス) 2年生
- ・導覧解説日本語(台湾の観光地や名産を紹介する授業(プレゼンテーション)) 3年生

会話クラスは1・2年共に、2クラスに分かれている。日本語のレベルで2クラスに分けているわけではなかった(1クラス約30人)。

その他の授業見学

- ・通訳の授業 4年生
- ・ビジネス日本語(Eメールの書き方) 3年生

通訳の授業はレベルが高く、他の授業よりも受講生の日本語レベルが高い。ビジネス日本語では、屏東大学の学生はEメールを使用する機会があまりないので(先生との連絡はラインが主流)、Eメールの書き方を間違っている学生が多いことから、Eメールの書き方(使用言語は日本語)について教えられている。

5. 校外授業見学

私達は4回校外の授業を見学した。

3月16日 屏東女子中学

この高校では2つの日本語の授業があり、一つは検定合格を目指すクラス(少人数)で3グループに分かれて交流した。もう一つは約30人のクラスで6グループに分かれて、新出単語の確認や練習を手伝った。使用教材は『日本語 GOGOGO』であった。レベルはどちらのクラスも初級レベルであった。

3月20日 社会人向けの授業見学

屏東縣立老人文康活動中心で行われている、社会人向けの授業を見学。学習者は老人で、最年長は85歳。皆さんすごく元気で勉強熱心であった。使用教材は『高級 地球村生活日本語』であった。この教科書は台湾の観光地や台湾で知られている日本人について書かれている新出単語の確認と教科書の文を朗読した後、6グループに分かれて交流。

3月28日 社会人向けの授業に参加している老人数名と先生が行っている勉強会を見学
実施場所は老人の別荘。3月20日の私達との交流を喜んでくださり、老人の方々からもっとお話をしたいという希望があったので、いつも行っている勉強会に参加させてもらった。この勉強会は、日本語で会話することで、会話力を伸ばす勉強会だった。

3月30日 千葉幼稚園

この幼稚園は、日本語と英語のみで授業が行われており、この幼稚園内で使用される言語も日本語と英語のみである。午前と午後で日本語・英語のクラスが分かれている。園児たちのレベルが高く、楽しんで語学を学んでいた。また、幼稚園のシステムや教育理念がしっかりしていた。

6. 教壇実習

・日語 (50分×2コマ)

改訂版『みんなの日本語』第25課

文法のクラスであるので、役割を「た形&て形の確認、仮定条件のたら、確定条件のたら、ても」と4つに分担し、文型説明&練習を行った。

・日本語聴講練習(50分×4コマ)

改訂版『みんなの日本語』第25課

会話のクラスなので、学生に沢山発話させる授業構成にした。役割は練習B&Cを「仮定条件のたら、確定条件のたら、ても、まとめ」に分担して行った。

どちらの教壇実習も、4人で協力し合い時間内に授業を終えることができた。時間配分にはゆとりをもって教案を作成していたので、問題はなかった。

7. 生活について

食事の面で困ることはなかった。ただし、ご飯の量は多く、脂っこい料理も多いので体調管理には気を付けた方がよい。また、3月でも気温が30度を超える日があるが、夜は気温が下がるので気を付けた方がよい。

バイクの交通量が大変多いので、道を歩く際は怖かった(歩道にバイクや物がおいてあるので歩くことができない)。

中国語が分からなくて困っているときは、学生が助けてくれた。先生方だけではなく、学生やルームメイトには本当にお世話になった。沢山助けてもらった。

8. 感想

・学生達は普段同年代の日本人と交流する機会があまりないので、積極的に実習生に日本語で話しかけ、会話の練習をしていました。また、その会話の中で知らない単語や日本の情報が出てきたらすぐにメモを取る学生もいて感心しました。その姿をみて、私たちは学生の「日本語がうまくなりたい」という熱い思いに答えなければならないと思い、より教壇実習に気合が入

りました。また、校外授業見学で出会った老人の方々の勉強熱心な姿や知識の多さを見て、若者の私はこの方々に負けないぐらい勉学に励まないといけないと思い、自分の日本語教師になるという夢の現実に向けてより一層頑張ろうと思いました。

授業を見学することで、さまざまな授業の行い方や練習方法を学ぶことができ良かった。今回この JIP に参加して、あらためて日本語を教えることの難しさを知りました。ですが、それと同時に日本語教師になりたいという思いが強くなりました。この経験は、自分にとって本当に役に立つ経験になりました。(藤原有里)



・私は台湾で日本語教育の実践教育をするまで、実際に日本語学習者に日本語を教えたことがありませんでした。今まで大学の授業の中で学んだことを活かすことができたり、その反面、私自身の知識不足を痛感したり今の力では通用しないと感じました。そのおかげでより一層「日本語教育を理解したい」「もっとわかりやすく日本語を教えたい」という気持ちになりました。

一か月の間にたくさんの授業見学をさせていただき、また大学外での見学も多く、台湾の日本語の多様化を感じました。小さい子たちから年配の方まで幅広く日本語が使われているのを目の当たりにしてうれしく思いました。

同じ大学生と寮で一緒に生活をして感じたことは、とても積極的に話しかけてくれるということでした。同世代ということもあって友達の話をしたり、授業の話をしたりと他愛もない話でも、そのような会話をたくさんできたのもすごくいい経験になりました。

授業の見学も、その他の活動も、寮で生活し学生とたくさん交流できたことは本当にいい経験でとても充実した実習になりました。(加藤莉里子)



・たった1ヶ月という期間の中で、多くのことを学べた実習になったと思う。先生方の授業やその姿勢、教え方の工夫など、大学で日本語教育の座学を学んだり、模擬授業をする以上の発見があったりしてとても身になった。また、実際の学習者と対峙するのも初めてで、難しく感じる部分もあったが、やはり皆勉強熱心でこちらまで、その姿勢に感化された。しかし、全員が全員、積極的に実習生達に話しかけることができるというわけでもないということもわかった。日本語を勉強しているけれど、話すのは恥ずかしい、間違ったら嫌だというような感覚が伝わってくることもあった。それをうまく引き出せるようになりたいと、今回の実習では特に思った。教育者と学生の距離やコミュニケーションなど、考えさせられることも多く、近くある教育実習でもいかせそうな点も多い。今回、外国語としての日本語、その教育を知るいい機会になった。この経験を次の機会に活かしていきたいと思う。(馬場真樹)



・一か月の授業見学で学生達の日本語を学習する熱意を感じていた。私が中国語母語話者と分かっていても、学生達は頑張って日本語を使って私と話していた。そのおかげで、学習意欲を失っていた自分は再び学習の熱意を思い出した。

留学に対する不安を減らしたいと思っている学生達と話し合っ、自分の留學生活と経験を教えた。自分は大学時代にあまり友達が出来ていなかったの、学生達とすぐに仲良くなれるのはとても嬉しかった。

校外の見学で年上の方々の授業を見学して、「生きて行く限り学び続ける」という姿を見て非常に感動した。昔の子供達はどのように日本の学生と仲良く付き合ったのか、日本はどんな国だと考えていたのかなど、非常に貴重な話を聞いた。それは私たちが今目指している異文化コミュニケーションの一つの形だと思った。

今回の教壇実習で、自分の力不足をはっきり感じた。それはとてもいいことだと思った。その貴重な経験を体験したからこそ自分が成長できると思い、将来も今回の台湾JIPで得たものを生かして頑張りたい。(シュ ケイハン)

